



# 雲晴

秋彼岸号

「雲晴」第三十六号

令和二年九月一日発行

貞林院 瑞正寺

〒125 東京都葛飾区東金町五丁目四六-五  
電話(〇三三) 三六二七-三四一  
FAX(〇三三) 五六九九-五九一五

釈尊のことば

## 法句経に学ぶ 6

神田寺住職 友松浩志

他人を誨<sup>おし</sup>うるがごとく

もしおのれに

行ぜしめなば

おのれ先ず

よくととのい

やがて

他人<sup>ひと</sup>をもととのえん

おのれをととのうる

げに 難<sup>かた</sup>ければなり



法句経 一五九

相変わらずコロナ感染が拡大し続け、世の中は不安でいっぱいです。いつ自分が感染するか、また家族が感染するか、心穏やかではられません。また、飲食・宿泊業をはじめ多くの業種で売り上げが急減し、経済不安も深刻です。

そんな中、人々の心もギスギスしてきたように感じます。マスクをしていない人が気になるし、電車の座席をつめてくる人も気にかかります。ネットに向かう人が多くなって、ネットには様々な意見が飛びかっています。その中には、他人への痛烈な批判も多く見られます。

法句経には、人の心のあり方についての確な教えがたくさん出てきます。ここにとりあげた教えは、現代人にも通用する「ドキン」とする教えです。簡単に言えば「人のことをとやかく言うなら、まず自分がやってみろ」といったところでしょうか。

人にものを教えるとき、とかく自分のことは棚にあげるものです。人の欠点はよく見えるけれど、自分の欠点は見えづらい。人の批判はできるが、自分の問題には気づかない。そんな「人」の持つ宿命に、コロナ感染のなか改めて気づかされます。

先ず「自分」を整える、そうすれば「人」もまた整えられる。そんな心境でみんながいたら、どんな困難も乗り越えられるように思います。



# 唱歌のふるさと 童謡のくに ⑦

著：佐山哲郎

## 夕焼け小焼けの赤とんぼ

三木露風作詞、山田耕筰作曲  
による「赤とんぼ」は時代を越えて歌い継がれてきた。

夕やけ 小やけの  
赤とんぼ  
負われて見たのは  
いつの日か

かつて砂川闘争というものがあつた。安保体制に反対する学生たちのデモが米軍基地の周辺で毎日のように機動隊と激しくぶつかった。

とはいえ、丸腰の学生たちはせいでい遠くから投石をする程度であつた。隊の側からもこれに和する声がかに聞こえたという。

あるとき、対峙したまま夕暮れを迎えたデモ隊と機動隊。離れたまま、ただしばらく睨み合っていたが、そのうち、学生の一人が「夕やけ小やけの赤とんぼ」と歌い出したという。それは次第にデモ隊の全員に静かな波となつて伝わり、合唱となつていった。そこに参加していた学生数人の証言によれば、機動

山の畑の 桑のみを  
小籠に摘んだは  
まぼろしか  
十五で姐やは 嫁に行き  
お里のたよりも  
絶えはてた

歌は進んでいき、感極まつて泣き出した学生もいた。それとともに間違いなく機動隊員の何人も涙を浮かべたのである。そんな時代があつた。

# 法然上人の御生涯 ⑦

## お念仏のひろがり

前号でお話ししたように、法然上人は、比叡山を離れ、お念仏と布教の日々を送られました。お念仏の教えが広まるにつれ、他宗派との交流も生まれてきます。主だったものをご紹介します。

### ○大原談義

文治二年(一一八六)、法然上人五十四歳の時のことです。後に天台座主(天台宗で一番の高位)になる天台宗の顕真上人の呼びかけにより、

大原の勝林院に各宗の碩学と多くの聴衆が集められ、一日一夜に渡つて、浄土宗の教えに関する問答が行われました。

この時法然上人は、浄土宗の教えこそが、すべての人々に適した唯一の教えであることを強調されました。

仏教には様々な教えがあります。そのそれぞれの教えを分類・体系化し価値づけることを教相判釈といひ、しばしば行われてきました。旧来の

教相判釈は、教えの難解さなどを判断基準にしていました。しかし法然上人は、教えの優劣ではなく、今を生きる万人に適しているかということを判断基準に自身の主張を述べられました。主張の最後には、「ただし、これは私なりの理解を述べたばかりである。すぐれた方の理解や修行を妨げようとするのではない。」

法然上人自身の長く厳しいご修行

# 一口法話



## 「月のあかり」

秋に夜空を眺めると月がきれいです。中秋の名月と呼ばれる陰暦八月十五日の満月は、人の心を打ち、古来より、それは暦となつて、私たちの生活の重要な規範、心よりどころとなります。いわゆる「太陰暦」であります。

「月影の いたらぬ里はなけれどもながむる人の心にぞすむ」

(法然上人のおうた)

法然上人の時代にも、見事な満月の夜があつたことでしょう。皓々と白くすべてを照らす美しい光に、人々は魅了されました。しかし、その美しさと尊さは、眺めた人に、初めて感じられるもので、法然上人は月の光を眺めることと、「南無阿弥陀仏」と日々お念仏申すことを相対して、阿弥陀さまのお救いをお説きになられたのでした。

畑泥棒が子を連れて瓜を盗みに来ま







## 秋の彼岸法要ご案内

秋の彼岸法要は次のとおり行いますので、お参りください。

### 九月二十二日(火) 正午より

彼岸法要は中日の正午に先祖代々のご回向をいたします。塔婆をご希望の方は、電話・ファックス・メール等にて寺までお申し込みください。

塔婆料 三千元  
回向料(お布施) 志納

### \*秋の「知恩院参拝旅行」

#### 中止のお知らせ\*

寺報第三十四号でご案内しました浄土宗総本山知恩院への参拝旅行は中止といたしました。

本年十一月三十日から十二月一日にかけて知恩院参拝を計画、八年の歳月を経て修復され、本年四月に完成しました国宝「御影堂」をお参りする予定でした。

残念ながら新型コロナウイルスの影響により年内の知恩院参拝の受け入れはできないことによるも

のです。

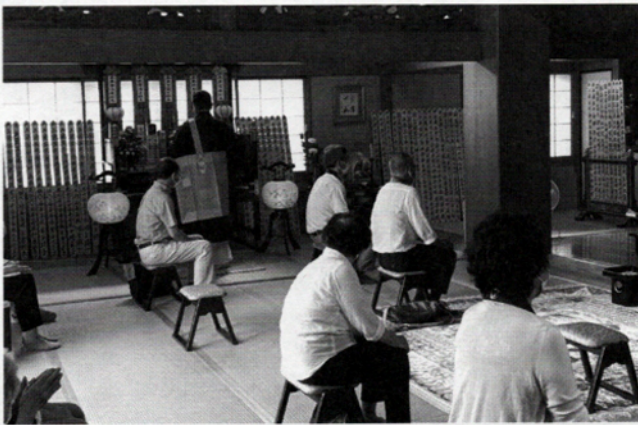
これまで当山では団参として浄土宗の各本山をはじめ浄土宗ゆかりの寺を檀信徒とともに参りしてきました。総本山知恩院への団参は知恩院山門の平成大改修を終えた時や法然上人二十五霊場参拝の際にも訪れております。

このような状況下では団体参拝は難しいと思われる中止となりましたが、コロナ禍が収束しましたら再度計画をしたいと考えておりますので是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。

### 「七月お盆法要を厳修」

七月十二日に七月お盆法要を厳修いたしました。今年は梅雨明けも遅く雨の多い年でしたが、当日は蒸し暑い陽気ではありませんでしたが天気にも恵まれ幸いでした。

新型コロナウイルス感染予防として本堂内の椅子も制限し、暑さも我慢して頂き窓を開け換気に配慮しての法要といたしました。また堂内には上がらないでも外で焼香ができるようにいたしました。九月彼岸法要も同じような形で行いますのでご承知おきください。



「本堂内は椅子の間隔を空け換気にも配慮しています」

### \*新型コロナウイルス感染予防

#### 対策として寺からお願い\*

檀信徒の皆様におかれましては不安な毎日をお過ごしのことと思いますが、くれぐれもご用心頂き健康には十分ご留意ください。なお当面の間、寺にお参りの際には次のような事柄について皆様のご協力をお願い申し上げます。合掌

- 寺にお越しの際は入口でマスクの着用をお願いします。
- 本堂にお上りの際には入口にある消毒液をお使いください。



「本堂内に設置されています」

- 各種法要や法事中にはマスク着用の上、なるべく少人数でのご参加をお願いします。なお高齢者の方は十分にご注意ください。
- 客殿では大きな声での会話を控え、席の間隔もなるべく空けるようお願いします。

○当面の間は法事の後の客殿でのお食事はご遠慮ください。

(貞林院瑞正寺)